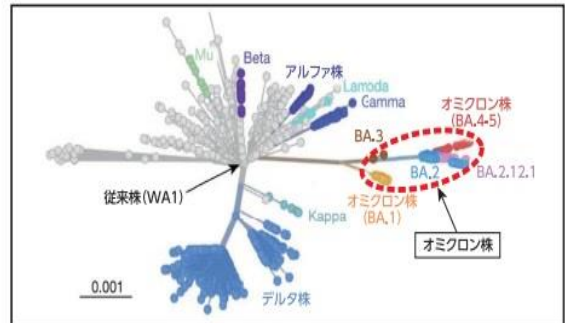


*** 今日の健康 (3月) ***

< コロナワクチンの今後 >

ウイルスは流行に伴ってできる感染者の免疫から逃れるように、次のバージョンの変異株に変わっていきます。変異株に対応したワクチンで感染を完全に防御することは非常に難しいと思われます。一方で今回の新型コロナに対する mRNA ワクチンは、強い細胞性免疫を誘導でき、変異株にも強く、また持続性も高いことが知られているので、3回接種した人については、細胞性免疫が十分誘導され重症化する可能性はかなり抑えられます。ワクチン接種に加えて感染経験があれば尚重症化リスクは下がり、感染症の終息につながると考えられています。

< 新型コロナウイルスの変異株の枝分かれ(系統樹) >



(*)出典をもとに改変
出典: Wang, Q., Guo, Y., Iketani, S. et al. Antibody evasion by SARS-CoV-2 Omicron subvariants BA.2,12.1, BA.4 and BA.5, Nature 608, 603-608 (2022).

感染経験のある若年者で、ワクチン接種による免疫応答が強く、高熱など強い副反応を我慢してまで何回も接種する必要はないかと思えます。しかし高齢者のような免疫応答が低い人は感染を経験しても何回も接種をする必要があるかと思えます。

ワクチンの効果は永久に続くことはないですが、ワクチンは重症化や感染後の後遺症を防ぐ効果があります。追加接種はより免疫を高め持続させることで感染防御からも重要と考えます。

新型コロナは、まだ始まったばかりの感染症で、まだまだ未知のウイルスなので、今後感染後 10 年 20 年経過したときに、後遺症の遷延や、麻疹のように残存したウイルスでコロナ脳炎 (仮称) を起こしたり、色々な急性後症候群になったりする可能性もあるのでワクチンを接種することが重要と思えます。

今後のワクチン接種の回数や間隔は今までの感染状況や感染者情報の積み重ねなどの研究に委ねられます。年に一度や二度、ブースターワクチンを打つことになっても別に問題はないと思えます。

現在ワクチンの開発は次々に進んでおり、たとえ変異があってもワクチンの効果が低下しない新型ワクチン (汎コロナワクチン: pan-corona vaccine) の開発も進んでいます。実用化されれば、年 1 回程度の接種、あるいは肺炎球菌ワクチンのように数年間有効な薬剤も開発されるようになると期待されますが、新型コロナウイルス感染症の致死率が季節性インフルエンザより高い間は、毎年少なくとも 1 回のワクチン接種は続くと考えられます。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏